



All Japan Road Race Championship 2021
RACE REPORT

SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

■SDG Motor Sports RT HARC-PRO. Media Infomation
2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第4戦 筑波大会

茨城県・筑波サーキット (1周 2.070km)

6月19日(土):公式予選・レース1 天候:雨 コース:ウエット

6月20日(日):レース2 天候:曇り時々晴 コース:ドライ

観客動員数:3,000人(人数制限有・2日間合計)

ST1000クラス #5 榎戸 育寛

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: DUNLOP

Race 1 予選: 5番手 (タイム: 1分02秒515) 決勝: 優勝

Race 2 予選: 4番手 (タイム: 1分02秒728) 決勝: 4位

J-GP3クラス #3 成田 彬人

マシン: Honda NSF250R タイヤ: BRIDGESTONE

Race 1 予選: 15番手 (タイム: 1分07秒290) 決勝: 13位

Race 2 予選: 13番手 (タイム: 1分07秒304) 決勝: 18位

ST600クラス #35 千田 俊輝

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

Race 1 予選: 11番手 (タイム: 1分02秒966) 決勝: 10位

Race 2 予選: 7番手 (タイム: 1分03秒015) 決勝: 11位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

Race 1 予選: 21番手 (タイム: 1分13秒074)

決勝: 21位 (インタークラス: 11位)

Race 2 予選: 21番手 (タイム: 1分13秒576)

決勝: 15位 (インタークラス: 9位)

TSUKUBA
GRAND PRIX



All Japan Road Race Championship 2021 **RACE REPORT**

SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



雨のレース1を制し榎戸育寛がST1000 初優勝！千田俊輝は両レースでポイント獲得！！



茨城県・筑波サーキットで全日本ロードレース選手権第4戦が開催された。昨年はコロナ禍の影響で中止となり、2年振りとなったが、今年も全クラス2レース制で行われた。

前週に行われた特別スポーツ走行(事前テスト)は、真夏のような暑さとなり厳しいコンディションとなったが、ST1000クラスの榎戸育寛は絶好調！ レースを見据えた様々なテストをこなした連日のトップタイムをマーク。2日目には56秒474をマークしていた。ST1000クラスは、今回が初開催となるが、榎戸にとって知り尽くしているホームコースだけに攻めどころが分かっているのが強みだ。



ST600 #35
Toshiki Senda

J-GP3クラスの成田彬人は、まだSUGOで負ったケガが完治しておらず、まだまだ本領発揮には至っていない。一方、ST600の千田俊輝は、筑波に来て安定してトップ10辺りにつける速さを見せていた。ST600ルーキー、マシンは型落ちながら健闘していた。J-GP3クラスの赤間清も事前テストで自己ベストを更新し、さらなるタイムアップを目指してレースウイークに入っていた。

初日となった金曜日のART合同走行は、事前テスト並みの暑い一日となった。榎戸は、2回目に試したセットがいい方向に行かなかったものの好調を維持し、1本目にマークした56秒639でトップにつけていた。

土曜日は一転してウエットコンディションで予選、そしてレース1が行われた。初めて走る筑波のウエットを想定し、チームとミーティングしながら予選セッションに臨むが、やや外してしまいレース1は5番手、レース2は4番手と、両レースとも2列目からのスタートとなっていた。



ST1000 #5
Ikuhiro Enokido

予選の問題点をアジャストし、レース1を迎える。降りしきる雨の中、シグナルがブラックアウトしレースが始まる。榎戸は、好スタートを見せ、1コーナーで一気に2番手に浮上。オープニングラップの最終コーナーで目の前を走る岡本選手が転倒。これで榎戸はトップに立つが、2周目には、2番手を走っていた前田選手が同じく最終コーナーで転倒したため、赤旗が提示され、レースは仕切り直しとなる。

2度目のスタートでも榎戸は、見事なダッシュを見せ、2番手で1コーナーに入るとアウト側からスピードを乗せ、S字コーナー進入でトップに浮上！ そのままレースをリードし、独走態勢を築いていく。

独走のままレースを制するかと思われたが、レース終盤に入るとマシンに問題が発生しペースダウン。2番手を走るライダーが追い上げてくる。最終ラップに入ると、その差はみるみるうちに迫り、第2ヘアピンでは、テールtoノーズとなる。榎戸は、逃げ切ろうと、できることは、全て行い必死のライディングを見せる。そしてバックストレートから最終コーナーの進入を抑え、チェッカーフラッグをトップで受けることに成功！ 僅か0秒090差で作本選手を抑えきり、うれしいST1000クラス初優勝を飾った。



ST1000 #45 Ikuhiro Enokido

日曜日は、天気が回復し、ドライコンディションでレース2は行われた。ドライは、事前テスト、そして金曜日といふセットが出ている。朝のウォームアップ走行でマシンを確認し、自信を持ってグリッドに向かった。

アウト側2列目から、レース2でも好スタートを見せた榎戸は、3番手で1コーナーに入っていく。そのまま3番手につけていたが、3周目の第2ヘアピンで作本選手にかわされ4番手。4周目の第1ヘアピンでは、津田選手にもかわされ5番手となるが、マシントラブルの発生した渡辺選手がスローダウンしたため再び4番手に上がる。

その後、4台による2位争いを繰り広げていくがフィーリングが変わってしまいペースを上げられない。それでも何とか4番手をキープしていたが、17周目の第2ヘアピンでスリップダウンしてしまう。マシンがコース上に残ってしまい、レッドフラッグが提示されレースは中断。規定周回数をクリアしていたため、16周終了時の順位でレースは成立することになった。赤旗の原因になってしまった榎戸だったが、4位という結果を残した。シリンズランキングでもトップに7ポイント差の3番手に浮上。残り3戦を全力で戦う覚悟を新たにしていた。



J-GP3 #3
Akito Narita

J-GP3の成田は、ケガの状態と苦手意識のある筑波に苦戦。それでもレース1を13位で終えポイントを重ねた。ST600の千田は、ウエットの予選で存在感を見せレース1でも、並み居る全日本ライダーの中で堂々の走りを見せ10位でゴール。レース2では、3周目の第1ヘアピンで多重クラッシュに巻き込まれてしまい転倒。仕切り直しとなったレースには、チームスタッフが素早くマシンを修復したこともあり、問題なく戦列に復帰。レース2は11位でチェッカーフラッグを受け、両レースでポイントを獲得した。



JP250 #71
Kiyoshi Akama

MFJカップJP250の赤間は、ウエットコンディションに苦戦したものの、ドライとなったレース2では、ライバルを次々にかわっていく走りを見せ総合15位、インタークラス9位でゴールした。

■榎戸育寛コメント

「昭和電機の皆さん、チームを始め、応援してくださっている全ての方のおかげで勝つことができました。本当にありがとうございます。今回は、事前テストで、いろいろな項目を試すことができ、すごくいい流れでレースウイークに入ることができていました。ウエットとなった予選は、少し外してしまった部分がありましたが、そこを修正して臨んだレースはスムーズに走ることができトップでゴールすることができました。レース2は、厳しいレースになり、第2ヘアピンで転倒し赤旗の原因となってしまい申し訳ないことをしてしまいました。総括としては、反省点もありますが、いいレースとなりました。次戦も新たな気持ちで全力で挑みます」

■成田彬人コメント

「2レースとも厳しいレースになってしまいました。特にレース2の方が難しかったですね。SUGOの事前テストで負ったケガは、かなりよくなってきたのですが、まだ半月板損傷した部分の痛みがあります。その中で何とかアバレージタイムを上げようと試行錯誤していたのですが、ウエットでは、レース中盤からブリヂストンのレインタイヤの使い方が分かってきたのでペースを上げることができたのは収穫でした。苦手意識のある筑波だから、ドライでは、マシンもタイヤもいい感触を得ることができなかった。次戦はホームコースとも言える鈴鹿なので、しっかり立て直して臨みます」

■千田俊輝コメント

「今回は、ウエットコンディションでの感触がすごくよかったので、レース2の予選は7番手とトップ10に入ることができました。レース1は自信を持って挑むことができました。レース中も冷静に走ることができましたし、シングルフィニッシュも可能だと思っていたのですが、赤旗中断があり、5周目の第2レースは激しかったのですが、とても勉強になりました。この経験を残し3戦に活かして、次回こそシングルフィニッシュができるように頑張ります」

■赤間 清コメント

「事前テストから金曜日までドライでは、順調に進んできていたのですが、土曜日は雨になり、予選では、セットを外してしまいました。さらに前戦SUGOでの反省を活かせずにアタックラップを失敗してしまいグリッドも下位に沈んでしまいました。予選での不具合を解消してレース1に臨み予選タイムを上回る走りはできたのですが、予選グリッドがよくなかったので挽回しきれずに終わってしまいました。ドライになったレース1は、追いつけることができ、いいレースができたので気分はスッキリしています」



このリレースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 マーケティング統括部まで